

門太の息子たちも力士に！

門太には子どもがいて、長男と三男が角界入りして力士となりました。

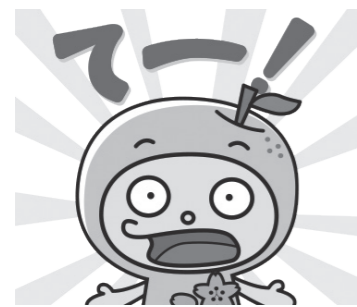
長男の落合武八は、高砂部屋に所属し門太が亡くなった翌年の文久2(1862)年に17歳で初土俵を踏みました。デビュー当時は、二荒山武八というしこ名でしたが、明治6(1873)年に武蔵野武八と改め、さらに武蔵野英之輔と改名しました。最高位は幕下6枚目で、明治19(1886)年に引退したと伝えられています。

三男の助三郎は明治8(1875)年に兄と同じ高砂部屋に入門しました。しこ名は小武蔵助三郎といい、最高位は幕下5枚目でしたが、その他のことは記録が無くわかっていません。

小浜にある相撲の神様を祀る碑

大字小浜にある小松神社境内に相撲の神様である「野見宿禰之命のみのすくねのみこと」の碑が建っています。門太は崇拝している野見宿禰之命の碑を建立することが夢でしたが、叶えられませんでした。門太の遺志を継いだ長男の英之輔(武八)と近隣の有志及び相撲界その他の協力を得て、明治23(1890)年に建立することができました。

この碑の裏面には、門太の功績と碑の建立に携わった人々の名が刻まれています。その中には、当時の歌舞伎界ビッグネームである九代目市川團十郎や五代目尾上菊五郎、初代市川左団次や、角界の大名跡の名があり、門太の人気のうかがえます。



寄贈いただいた錦絵を展示します！

寄贈された錦絵とともに、武蔵野門太について町民の皆様にご覧いただけるように、下記のとおり企画展を実施いたします。詳細は町ホームページをご覧ください。

「現代に蘇る！幕末の力士 武蔵野門太」

開催期間 ①2月27日(月)～3月16日(木) ②3月18日(土)～31日(金)

開催場所 ①神川町役場1階 町民ホール ②神川町中央公民館

開催時間 ①午前8時30分～午後5時15分(役場開庁時間) ※開庁日以外の土日祝日は見学できません。

②午前9時～午後9時30分(公民館開館時間)

企画展に関する問合せ 生涯学習課 文化財担当 ☎0274-52-2586 FAX0274-52-2586



町ホームページ



かみかわの歴史・発見!!

第33回 紹介！神川出身の力士 武蔵野門太

問合せ 生涯学習課 文化財担当 ☎/FAX 0274-52-2586

相撲錦絵師の木下大門さんより寄贈していただいた「武蔵野門太」の錦絵(表紙)ですが、題材となった武蔵野門太をご存知でしょうか？

今回は武蔵野門太とはどのような人物だったのか紹介したいと思います。

門太の生涯

武蔵野門太 (本名:落合門太) 1809～1861年

門太は、落合安之丞の長男として、現在の大字小浜に生まれました。幼少の頃から力持ちで、19歳の時に力士を志して江戸へ行きました。江戸で武蔵川大次郎に入門し角界に入りました。

初土俵は、天保4(1833)年の2月場所で、この時のしこ名は神田川門太でした。武蔵野門太というしこ名になったのは、初土俵から2年後の1835年の10月場所からです。

天保9(1838)年には姫路藩(現在の兵庫県)の酒井家のお抱え力士※となりました。

嘉永5(1852)年に引退し、引退後は年寄「大獄」の名跡を継いで大獄門太と名乗りました。

文久元(1861)年に故郷の小浜へ帰り、その年に病気で亡くなりました。享年53歳でした。

※お抱え力士

江戸時代の相撲における身分保障の一つ。力士が大名家に家臣として取り立てられて、武士の身分となることができた。



絵：木下大門氏

門太は身長が5尺(160cm程度)と力士としては小柄で、極めて巧みな技を使いこなす手取力士であったと伝えられています。最高位は前頭4枚目で、当時の錦絵にも描かれるなど人気を博しました。